

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

| |
|------------------------|
| 社会情報科学部データサイエンス専門教務委員会 |
|------------------------|

(責任者名)

| |
|------|
| 笹嶋宗彦 |
|------|

(役職名)

| |
|----|
| 教授 |
|----|

② 自己点検・評価体制における意見等

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|----------------------------------|--|
| 学内からの視点 | |
| プログラムの履修・修得状況 | 令和7年度に認定されたため、学生全体に本プログラムが周知できていない。新年度のオリエンテーションから、本プログラムと、必要な履修の仕方について、周知する予定である。本プログラムを履修するために必要な科目は全て開講されており、必修科目については学部生が全員受講している。選択科目については、前年度並みの受講状況である。 |
| 学修成果 | 令和7年度に認定されたため、まだ継続的な観察は必要であるものの、対象科目の単位取得状況について、特に大きな変化はなかった。 |
| 学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度 | 単位取得状況を見る限り、必要なレベルでの理解度は達成できたと考えている。学生アンケートについて、一部科目に対して、内容が高度過ぎるという感想があったが、本プログラム履修のために必要な内容であり、時間外に補修で対応するなど、今後引き続き、理解度向上のための工夫を重ねていきたい。 |
| 学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度 | 前述の通り、認定されたばかりであり、学生への周知が遅れているため、次年度以降、しっかり周知するとともに、学部全体に対して本プログラム修得を推奨したい。 |
| 全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況 | 本年度認定されたばかりであるが、履修者数や履修率の推移を観察するとともに、結果に応じて適切な対応(プログラムの周知や、担当講師との情報共有など)をとって、なるべく高い履修率をめざしたい。 |

| 自己点検・評価の視点 | 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等 |
|---|---|
| 学外からの視点 | |
| 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価 | 毎年、進路についてはデータを取っている。また、一部ではあるが、卒業生をゲスト講師に迎えて、活躍の状況について、本プログラムの必修講義で、後輩の学生たちに伝えている。次年度以降も引き続き、本プログラム受講生の活躍の状況について観察と情報発信を続けて、有効な教育手段となるように努めたい。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | 上記の回答の通り、継続的な改善のために現状で考えられるカリキュラムを組んでいる。指標を観察し、必要に応じて、産業界からの意見を反映させた、教育プログラムへと近づけてゆきたい。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | 本プログラム全体で、数理・データサイエンス・AIの基礎技術を学ばせるとともに、本プログラムに含まれる、産業界や自治体などの実務との関りを紹介する科目を履修させることで、受講生が学ぶ目的を具体的に持つことを支援し、モチベーションと理解の向上に努めている。 |
| <p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p> | <p>これまでの回答の繰り返しとなるが、本プログラムを構成する科目群を担当する教員と連携し、履修率や理解度の向上のためにFDなどで情報共有を行い、有効な教育プログラムとなるように今後努めていきたい。また、生成AIに関する体系的な教育が必要と考えており、令和8年度から、試行的に生成AIの理論と実用に関する講義を開講する予定である。</p> |